

それゆけ！ としょかんだより



2008年5月 第13号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

図書館を使ってみよう講座Ⅰ ～本を借りよう～

本が読みたい！そんな気持ちになった時は、まず図書館へ！

本を探そう♪
読みたい本が決まっている！
→①
とりあえず本が見たい！
→②

① 図書館ホームページの蔵書検索から検索。
※この方法は確実です。

図書館ホームページの赤丸の部分をクリック！

検索画面が表示されます！

② 直接書庫の中に入って図書を見てみる。
※時間のある方、なんとなく本が見たい方におすすめです。

検索して、本を決める！
書名、請求記号等を、メモ用紙などにメモする。

書名

請求記号

メモしたものを持って、書庫へ！
書庫に入る前に、書庫入口の「書庫案内」をご覧ください。
※初めて書庫に入る、本の探し方がいまいよくわからない…という方は、図書館係員におたずねください。

読みたい本が決まったら・・・

カウンターで貸出・閲覧手続きをする！
図書館じゃないところで読みたい！→貸出
図書館の中で読む！ →閲覧

読み終わったら・・・

図書館カウンターで返却の手続きをとりましょう！

※書庫に入る時は、必ずカウンターに学生証を預けてください！

としょかんのウワサ・・・

- 一、図書館に、ミニ企画コーナーができたらしいよ～
- 二、図書館1階にお茶が置いてあるんだって♪
- 三、ゴミ箱戦隊が閲覧室カウンター横のドアの外で待ち構えてるよ！

全国書店売上 BEST10!

Yahoo!ブックス 毎月1日のランキングです。

4月

- 『B型自分の説明書』
- 『女性の品格』
- 『夢をかなえるゾウ』
- 『零崎曲識の人間人間』
- 『流星の絆』
- 『ヘキサゴンドリル』
- 『親の品格』
- 『脳を活かす勉強法』
- 『生命(いのち)の法』
- 『ダーリンは外国人 with BABY トニー&さおりの爆笑子育てルポ』

2008年4月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3

2008年5月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
27	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9:00-18:00	13:00-18:00
9:00-17:00	13:00-17:00
9:00-12:00	閉館
9:30-16:30	

切り取り

さあ！
確認してみよう！！

今月のおすすめ図書！

村田久行 著

『ケアの思想と対人援助』

(川島書店, 1998年5月)

請求記号: 922/ケ/2

※今月は静 慈圓先生のおすすめです。

柳田邦男 著

『「死の医学」への日記』

(新潮社, 1999年4月)

請求記号: 922/シ/62

仏教は、日本の歴史の中で「救い」としての活動を、常に行ってきた。弘法大師空海の仏教観それを密教というが、密教も1200年の間、救いの思想として今日まで伝わっている。思うに仏教は、各時代をとおして、それぞれの時代に救いの思想として、人間とのかかわりを持ってきた。

さて、昭和・平成時代の人間が求める救いと、仏教はどのようにかかわっているのでしょうか。私は、現代人への救いとのかかわりも、やはり釈尊が説いた「生・老・病・死」の四苦ということだと考える。この問題は、釈尊か仏教を説いて以来2500年一貫して変わらない人間の問題である。

だが現代、この四苦に最も多くかかわっているのは、仏教ではなく医学・医療の世界である。私たち仏教者側からすれば、仏教で行ってきた最も大事な人間の苦悩・苦痛からの解放つまり「救い」の実践が仏教から離れていっている。そこで私は、高野山大学に学ぶ者に、現代の苦悩・苦痛に関心を持っていただきたいと考える。

生きた仏教とは何か。自分が大学で学んでいるもの「密教・仏教・スピリチュアル」そのことを現実世界に役立てる方向として、少し別の方向に目を向けること、そこに又仏教の活かし方があることに気付いてはどうだろうか。現代の医学・医療の問題、又この問題と仏教とのかかわりの書物も多く出版されているが、まずは上記の書物を紹介しておきたい。

今月の…ぴか！



「うどん」って昔からの日本食だと思いませんか？実は「うどん」は中国から伝わってきたんです。

うどんは漢字で書くと「饅飩」とかき、中国から伝来した唐菓子、「饅飩(こんとん)」に由来しています。饅飩は古くは王朝時代、新嘗祭の豊明節会(とよあかりのせちえ)に出されていました。小麦粉をだんごのように作り、中に餡を入れて煮たもので、それを熱い湯で煮たものを温麺(うんとん)といい、“温”を食偏にして「饅飩(うどん)」になったのです。うどんには切麦、冷麦、平饅飩、

うどん

干饅飩、麦切、平饅飩(大麦の粉で作る)などがあります。



うどんって昔はお菓子だったんですね。ちなみに、讃岐うどんの創始者は弘法大師だったと言われ、唐から帰ってきた弘法大師が生地に近い小松の里(現在の琴平町)に伝えたとされているようです。

それに、日本では昔、年貢にいいお米をとられたため、現在では人間が食べない、動物の飼料にしているような穀物を、夜につぶして日々の食料にしていた…これもまた、日本の粉食文化が発展するきっかけだったんですね！

※参考にした資料は、

瀬川清子著『日本人の衣食住』(河出書房新社, 1976年) / 長井恒著『うどん通』(東京書房社, 1986年3月)

朝倉治彦 [ほか] 共編『事物起源辞典』(東京堂出版, 2001年9月) / 日本風俗史学会編『日本風俗史事典』(弘文堂, 1979年2月)です。興味をお持ちの方は、どうぞご覧下さい。



(編集後記)「それゆけ! としょかんだより」この第13号から2年目です。1年目、ほとんどギリギリに出来上がっていたのですが、今年こそは余裕をもって! 発行できたらなあ… (森)

発行所

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385 高野山大学図書館 閲覧室

Tel: 0736-56-3835 / Fax: 0736-56-5590 /

E-mail: service-lib@koyasan-u.ac.jp